

【 2017ユース世界選手権 】

2017年8月8日～8月20日 ジョージア・トビリシ

試合結果報告 8 月 16 日 (水)

J P N	VS	EGY(エジプト)
10	前半	14
21	後半	16
31	合計	30

個人得点

名前	前半	後半	7MTC	合計
高野 颯太	0	1		1
末岡 拓美	3	2		5
阿部 奎太	0	2		2
部井久アダム勇樹	2	0		2
服部 将成	0	1		1
徳田 廉之介	4	5		9
村木 幸輝	0	3		3
山田 翔騎	0	0		0
堀田 陽大	0	0		0
矢野 世人	0	4		4
寺島 健太	0	0		0
中村 光	0	0		0
本田 悠也	0	0		0
蔦谷 大雅	1	3		4
川崎 駿	0	0		0
戸井 凱音	0	0		0
合計	10	21	0	31

戦評

決勝トーナメントの1回戦の相手はアフリカのエジプト。事前のトレーニングやミーティングではディフェンスでのルーズボール死守、オフェンスでは相手の5:1をどう切り崩すかに焦点が置かれた。前半はロースコアの展開。お互い攻め手を欠いて守りあう中、均衡が崩れると一気に連続失点を食らうスリリングなゲームとなった。No.5部井久、No.3末岡が出だして2連取したかと思えばエジプトも負けじと3連取、2連取と反撃開始。日本も臆することなく13分過ぎからNo.24蔦谷、No.3末岡の2連取、徳田が一人で3連取と反撃し25分で10-9と日本1点リード。しかし安心するのをつかの間、エジプトが5連取と怒涛の反撃。日本がオフェンスでイーゼーミスを連発したところを一気に狙われ10-14と4点ビハインドで前半を折り返すこととなる。ハーフタイムの雰囲気は予選リーグのドイツ戦とどこか似通っていた。「戦う気持ちを出そう」そんな言葉がロッカールームに響き渡り、気持ちを新たに後半戦に臨んだ。開始早々、失点した日本だったが、No.24蔦谷、No.7徳田らが3連取し14-16とエジプトを射程圏内へ捕らえる。しかし再びエジプトが5連取と猛攻を浴びせ後半10分14-21と7点差をつける。ここで日本はディフェンスの布陣を6-0からNo.13矢野をトップに据えた5-1へスイッチする。ゴートプレーヤー6人が積極的にボールを狩る姿勢が功を奏し、インターセプトを量産。12分から17分までのわずか5分間で8連取と猛ラッシュ。試合を一気にひっくり返した。後半20分、日本の勢いは止まらず再びNo.9村木、No.2高野、No.13矢野で3連取し27-25と2点リード。試合は1点を取り合う白熱の展開へととなっていく。日本が得点すれば、エジプトも、パワーを前面に押し出した力強い1対1を何回もしかけて喰らい付く。そんな緊縛した試合に終止符を打ったのは日本だった。残り1分30-29と日本1点リードの場面で、No.16GK中村が相手のウィングショットを渾身のセーブでマイボールにする。すかさず日本ベンチはチームタイムアウトを要求。早打ちせずハッソップまで粘ることを確認して運命のラストアタックに臨んだ。試合再開早々エジプトは日本のNo.7徳田にマンツーマンをしかける。ここで機転を利かせたのはNo.9村木。右バックポジション付近に流れてフリースローをもらう。そしてフリースローポイントから3mエリア内にNo.7徳田を置き、相手のマンツーマンを外した状態を作り出す。再開後、ボールを左へ展開した瞬間、慌てて再びマンツーマンをしに来た相手ディフェンスの動きをNo.7徳田は見逃さなかった。迷わず裏のスペースへ走り込みNo.4阿部からのラストパスを受けるとゴール前中央から値千金の31点目を叩き込む。最後に1点返されるが31-30と見事な逆転勝利でベスト8進出を決めた。日本ハンドボールの歴史に新たなページを刻み、次戦はベスト4をかけたスペインと対戦する。

報告記入者 :

吉村 晃